

# ひょうたんいけ

桜台小 学校だより  
令和3年11月12日  
第36号



いよいよ4日後（11月16日（火））に運動会当日を迎えます。今年度はコロナ禍で、さまざまな制約がある中での運動会の開催となりました。今年度は、2学期当初の休校期間もあり、運動会の練習に費やす時間も短かったですが、その中で子どもたちは一所懸命練習をしてきました。保護者の皆様には、子どもたちの精一杯がんばる姿を見て競技後に大きな拍手をいただくと、子どもたちの励みにもなりありがたく思います。どうぞよろしくお願ひします。



運動会の開催につきましては、実施・中止にかかわらず、当日朝6時半頃に「すぐメール」「学校ホームページ」にて連絡をします。

※学校ホームページ「桜台っ子ニュース」では、日々の学校の様子をカラーで紹介しています。



## 南中ソーラン（桜台ソーラン）踊りについて

運動会では、きょうだい学年ごとに南中ソーラン（桜台ソーラン）を踊ります。文科省学習指導要領には、小学校体育の表現運動系として『自己の心身を解き放して、イメージやリズムの世界に没入してなり切って踊ったり、互いのよさを生かし合って仲間と交流して踊ったりする楽しさや喜びを味わうことのできる運動』と記されています。今回は運動会で踊る南中ソーラン踊りの由来を少し紹介したいと思います（フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』より一部抜粋）。

南中（なんちゅう）ソーランは、民謡歌手の伊藤多喜雄さんが北海道の民謡であるソーラン節をアップテンポにアレンジした曲を用いた踊りの通称名です。北海道の稚内市立稚内南中学校の教員と生徒が考案したことが名前の由来で、報道、TVドラマ、映画などにより「学校を再生したソーラン節」として知られることになり、国内の運動会や体育祭で広く踊られるようになりました。学校によっては「〇〇ソーラン」と自校名をネーミングにした踊り（本校は桜台ソーランと名付）が行われています。正調のソーラン節は、漁業が基幹産業である稚内市の親や地域住民には好評でしたが、テンポが遅く歌詞も古いという理由で、生徒には不評でした。伊藤多喜雄さんによるロックソーランに、当時の教員がニシン漁の所作から踊りの振り付けを考案し、生徒の意見も反映され、新しいソーラン節として生まれ変わりました。TBS系のテレビドラマ「3年B組金八先生」では、第5シリーズから第7シリーズまで文化祭で南中ソーランに取り組む脚本となり、第7シリーズ最終回では河川敷にてフルバージョンの踊りのシーンが盛り込まれました。

## 『こにゅうどうくん』が訪問してくれました。

11月8日（月）、四日市市シティプロモーション部観光交流課が、四日市市を紹介するための『四日市市シティプロモーションコミック』を贈呈するために本校を訪問されました。20分休みに6年生の代表委員の子どもたちが4冊のコミック本を受け取り、こにゅうどうくんを囲んで記念撮影をしました。その後、こにゅうどうくんが運動場で遊んでいる子どもたちのもとへと近づいて、一緒に歩いてくれました。子どもたちは「キャーキャー」と大はしゃぎで喜んでいました。

授業が始まると、各教室を回ってくれました。2年生の授業では、木琴をたたいたり、子どもたちが出すかけ算の問題に答えたりしてくれました。体育館をのぞくと、1年生が運動会に向けて桜台ソーランを練習していました。こにゅうどうくんも音楽に合わせて1年生と一緒に桜台ソーランを踊ってくれました。

子どもたちはこにゅうどうくんの楽しい時間を過ごすことができ、とてもうれしそうでした。



（文責 北住 昌文）

